

※文字の大きさは Meiryo UI /12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。
※具体的に示したい図、写真、表、グラフなどは、（写真 1）（表 1）などと文中に記載し、右ページに（写真 1）（表 1）などと表記の上、貼り付けてください。
※文章と図等を組み合わせながら作成することも可能です。各項目の枠の上下幅は変更可能です。
※いずれの場合も、必ず A 3 片面 1 枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは 5 MB 以下としてください。

※事務局記入欄

【様式 2】

No. B-32

部門名： 働き方改革実践部門	エントリー名： 滋賀県米原市立河南中学校 教諭 五十嵐 光寛 (平成 30 年度第 5 回中堅教員研修)
-------------------	--

活動名：
意識改革への第一歩
C-PDCA サイクルの手法を利用

解決すべき課題：

現在、学校は、社会の変化への対応や保護者、地域等からの期待の高まりを受け、多くの業務を抱え、子どもに対応する時間も削られたり、多忙感を抱いたりする教員も少なくない。
また、教員としての本来の職務を遂行するためには、教員間の学びあいや支え合い、協働する力が重要となるが、教員の間には学校が一つの組織体であるという認識が希薄になっていたりすること多かったり、組織の年齢構成の偏りなどもあり、教員間の同僚性が十分発揮されていないことが多くある。
(参考文献 教員をめぐる現状：文部科学省)

目標・方針：

学校には、行事、P T A 活動、出張、会議、研修、文書作成、部活動など様々な職務が存在する。職務内容は異なるが、さまざまな職務が存在することは、企業等においても同じことである。
しかし、学校においては、これらの職務を行うにあたり、教員の年齢構成の偏りや生徒数の増加・減少による学校規模の変化などがあるにも関わらず、従来の方で計画し実行してしまうことがある。その一つの要因として考えられることは、教員の取組に対する意識の差である。
そこで教員として行すべき様々な職務があるが、学校行事に焦点をあて、学校行事の見直しを通じて教職員の行事の取組への意識の差を埋め、同僚性の向上および多忙感の解消につなげる。

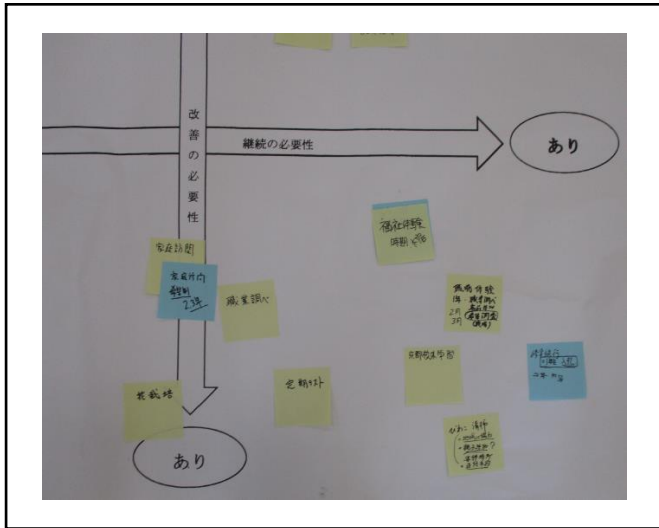
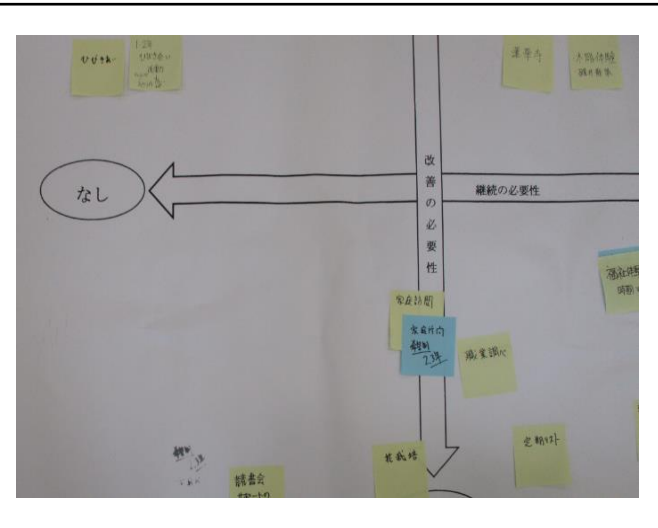
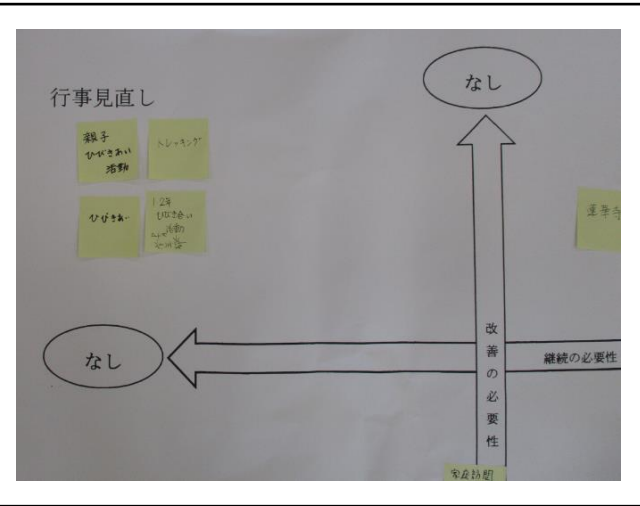
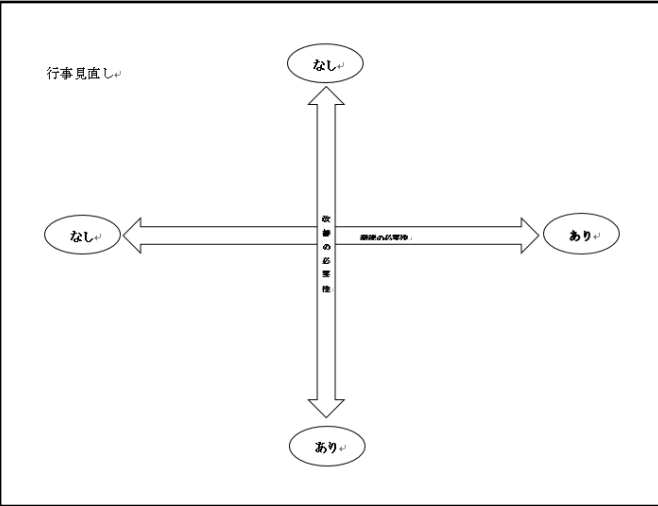
活動の成果：

- ・本校は生徒数 64 人の小規模校であり、常勤教員 13 人である。グループ協議は全教員（参加 9 人、出張等による欠席 4 人）で行った。
- ・縦軸を行事改善の必要性「あり」「なし」、横軸を行事継続の必要性「あり」「なし」とし、年間行事計画、月予定、教育課程の総合的な学習時間をもとに、各個人が付箋に課題と思われる行事を書き、問題点について発言し、周りの教員も意見を発言した。
- ・3 年間を見通して活動を考えることができるようになった。年齢に関係なく発言がしやすく、何が課題となっているかについても考えることができ、共感することも多かった。

ピールポイント（アイデアや工夫）：※3～5 つ程度、箇条書きしてください

- ・行事の問題点について課題を共有でき、継続の必要性について確認することができた。
- ・年齢に関係なく意見を発言しやすい環境となった。
- ・教職員の負担感について共感することができ、同僚性について高めることができた。
- ・付箋の色で教員の負担感を表した。
- ・シンキングツールを用いた。

シンキングツール



活動の様子

